

1 題材について

対 象 学 年	中学校 第2学年
学 習 指 導 要 領	第2学年の内容 A表現(2)ア、イ、ウ B鑑賞ア
題 材 名	「あかり」（全9時間）
題 材 目 標	<p>生活の中に生きる工芸作品について興味・関心をもち、意欲をもって自分の主題にあった作品づくりをする。 【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>主題に合ったフォルムや光を生み出すためにアイデアを練り上げたり、構想したりする。 【発想や構想の能力】</p> <p>主題に合った美しいフォルムを作るために、粘土や用具の扱い方、技法を理解し制作に生かす。 【創造的な技能】</p> <p>資料や参考作品を見て、そのよさや美しさを味わい自分の作品生かそうとする。 【鑑賞の能力】</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫</p> <p>題材指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に試し、構想を練り上げる場を位置付けることで、板づくりについて材料・用具の扱い方を身に付けることができるようにする。 ・板づくりをもとにして制作することで技法をしばらくこみ、容易に発想を広げられるようにする。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートによって、一人一人の実態をつかみ、それに応じた資料を用意する。
参 考 資 料	<p>資料1：教師作品、生徒作品</p> <p>資料2：題材で使用する学習プリント</p> <p>資料3：題材で使用する学習ノート、評価累積表</p>

2 題材の評価規準

	a 美術への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
内容との ま評と価 ま規 り準	<p>【表現】 生活の中のデザインや工芸 独特な表現方法などに関心 を深め、夢や目標をもち、 自分のよさを生かして創造 活動に主体的に取り組み自 己実現の喜びを味わい、美 術を愛好し心豊かな生活を 創造していこうとする。</p> <p>【鑑賞】 自然、美術作品や生活の中 の造形、美術文化や文化遺 産などの鑑賞に親しみ、美 術文化の継承と創造、心豊 かに生きることと美術との かかわりなどに関心をも って鑑賞する喜びを味わい、 美術を愛好し心豊かな生活 を創造していこうとする。</p>	<p>夢や想像、使用する 者の気持ちや機能、 自然との共生、デザ インの効果などを考 え、感性や想像力を 働かせ独創的・総合 的に考えて豊かな発 想や構成を工夫し、 心豊かな表現の構想 をする。</p>	<p>造形感覚、感性や 創造的な技能を働 かせ、形や色彩、 材料や用具の効果 的な生かし方など を総合的に考え、 表現意図に合う表 現方法を創意工夫 し、美しく創造的 に表す。</p>	<p>感性や想像力を働 かせて、よさや美 しさ、作者の心情、 創造力の豊かさ、 自然や生活と美術 とのかかわりなど を感じ取り深く味 わったり、自分の 価値意識をもって 批評し合ったり、 日本及び諸外国の 美術文化や文化遺 産などの特質、文 化と伝統などにつ いての理解や見方 を深めたりする。</p>
題材の 評価 規 準	<p>【表現】 生活の中のデザインや工芸 に関心をもち、美的感覚を 働かせよさや美しさを感じ 取り、自分の主題に合った 表現を追究しようとする。</p> <p>【鑑賞】 生活の中の工芸作品に興味 をもち、その美しさやよさ を味わい、自分の作品に生 かそうとする。</p>	<p>光の効果や造形的な 美しさを考え、主題 を生かしながら機能 的で生活を豊かにす るデザインを構想す る。</p>	<p>土のもつ特性や用 具、表現方法を理 解し、機能性と美 しさを備え主題に 合った表現を工夫 する。</p>	<p>感性や想像力を働 かせ、作品の表現 意図や美しさ、環 境に働きかける機 能性を理解する。</p>
単具 位体 時の 間評 に価 お規 け準 る	<p>興味をもって作品を鑑賞 し、工芸作品の美しさや よさを感じ取ろうとする。 自分の主題に合ったフォ ルムや光のイメージを表 現するために粘り強く制 作に取り組む。 自分や他者の作品を鑑賞 し、よさや美しさを積極 的に見付けようとする。</p>	<p>板作りから様々な フォルムを発想し、 自分の作品の構想 を練る。 環境とフォルム、 光とのかかわりの 中から主題を考え、 主題に合った表現 を構想する。</p>	<p>粘土の特性、用 具の扱い方、板 作りや接合方法 等の技法を理解 し試作品を作る。 光を入れたり、 形を工夫したり しながら自分の イメージに合った 様々な表現を 試す。 形、光の効果、 マチエールなど を総合的にとら えた表現をする。</p>	<p>フォルムの美し さと光の効果に かかわる工夫を 理解する。 作品の表現意図 や表現の工夫を 理解し、見方や 感じ方を深める。</p>

3 指導と評価の計画(全9時間)

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	教師や生徒の作品を鑑賞して光の効果や造形的な美しさを感じ取り、陶芸作品のもつ温かさや生活を豊かにする照明器具のよさを味わい制作に対するイメージをもつ。	参考作品や提示された資料を見る。 ”あかり”の持つ形や光の美しさを味わう。 それぞれの作品の形や光の特徴、裸電球との違いを味わう。 作品を見ての感想を書き、自分が制作してみたい作品の構想を練る。	< a > ○興味をもって作品を鑑賞し、工芸作品の美しさやよさを感じ取るうとする。 < d > ○フォルムの美しさと光の効果にかかわる工夫を理解する。	学習ノート ・作品のよさや工夫点、自分が作りたい作品についてのイメージなどが書かれているか。 ・形や光の質についての記述があるか。	単に光や形が美しいだけでなく、形が光の漏れ方にどうかかわっているかという視点を示し、作品の構想に結び付けられるようにする。
2 3	粘土についての表現方法や用具の扱い方を理解し、試作を行う。	示範を見て、板作りの方法について理解する。 板作りの方法を身に付け試作の作品を制作する たたらを切ったり巻いたりしながらいろいろなフォルムを試す。 試作した作品のスケッチや授業の振り返りを行う。	< b > ○板作りから様々なフォルムを発想し、自分の作品の構想を練る。 < c > ○粘土の特性、用具の扱い方、板作りや接合方法等の技法を理解し試作作品を作る。	スケッチ ・いろいろな形を試しているか。 作品 ・板作りにかかわる技法を生かした作品になっているか。	机間巡視をして、粘土や用具の扱い方についてアドバイスを行い、板作りの方法を身に付けられるようにする。
4	自分の作品を置きたい環境や作り出したい光のイメージをもとに主題を考え、主題に合った表現を構想しスケッチに表す。	提示された資料を見て、光が環境や感情に与える効果について考える。 自分の作りたい作品の主題を決め、スケッチに表す。 資料を参考に、作品の主題を考え、主題に合ったフォルムを構想しスケッチする。 学習ノートに制作の振り返りを記入する。	< b > ○環境とフォルム、光とのかかわりの中から主題を考え、主題に合った表現を構想する。	学習ノート スケッチ ・主題とその理由や作品のイメージが書かれているか。 ・主題に合った作品のスケッチがわかりやすく描けているか。	参考資料を見せたり、アドバイスを行ったりして、主題と表現が結び付けられるようにする。

5 6 7 8	<p>主題を効果的に表現するために造形感覚を働かせ、フォルムや光の出し方について創意工夫する。</p>	<p>フォルムと光とのかかわりがわかる資料を見て主題表現について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>フォルムと光のかかわりを考えながら主題を効果的に表現する。</p> </div> <p>主題を効果的に表す工夫をしながら制作する。</p> <p>できた作品について主題が表現できているか評価し、学習ノートに記入する。</p>	<p>< a— > ○自分の主題に合ったフォルムや光のイメージを表現するために粘り強く制作に取り組む。</p> <p>< c— > ○光を入れたり、形を工夫したりしながらさまざまな表現を試す。</p> <p>< c - > ○形、光の効果、マチエールなどを総合的にとらえた表現をする。</p> <p>< d - > ・作品の表現意図や表現の工夫を理解し、見方や感じ方を深める。</p>	<p>生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を表現するために工夫したり作り直したりしようとする姿が見られたか。 <p>作品、生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や光の出し方に主題を意識した工夫が見られるか。 <p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形、光、マチエールなどを効果的に結びつけ、主題を表現した作品になっているか。 <p>発言、学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の工夫点や表現意図にかかわる内容であるか。 	<p>参考資料や互いの作品を見ることで主題と表現を結びつけ発想を広げられるようにする。</p> <p>個別指導によって、主題を表現するために適切な表現技法や用具の扱い方ができるようにアドバイスをする。</p>
9	<p>作品に光源を入れ、自分や他者の表現のよさや美しさを味わう。</p>	<p>自分の作品の主題と表現の工夫について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 互いの作品を鑑賞し、よさや工夫してある点を見つける。</p> </div> <p>互いの作品を鑑賞し、よさや工夫の見られる点をべ合う。 制作を振り返り、感想や工夫、努力した点を記入する。</p>	<p>< a— > 自分や他者の作品を鑑賞し、よさや美しさを積極的に見付けようとする。</p> <p>< d— > 作品の表現意図や表現の工夫を理解し見方や感じを深める。</p>	<p>発言、学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで作品のよさをを見つけたり記述しようとしたか。 <p>発言、学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や記述の内容がよさや工夫点についてふれられたものであるか。 	<p>光の漏れ方やフォルムについてなど視点を与えて、明確な意図をもって鑑賞ができるようにする。</p>

(1) 本時のねらい

- ・主題を生かし表現意図に合わせた光の出し方や成形の方法を試行錯誤しながら、より美しく使いやすい“あかり”を作ることができる。

(2) 本時の位置

5 / 9 時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む	<p>主題を表現するための形と光について考える。 A子の作品に光源を入れ、主題や制作意図を聞く。 教師の参考資料を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォルムと光のかかわりや工夫が明確にわかるもの ・主題性が感じられるような光のもれ方をしているもの 	<p>作者の意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の作品と比べながら鑑賞しようとする。</p>	<p>作品の鑑賞や作者の制作意図から感じることを交流しあうことで学習課題を明確につかむようにする。</p> <p>主題を表現するために工夫する点を明確にしていくとともに表現に必要な技法や用具について理解し、制作に生かせるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>光の出し方や形の工夫をすることで自分の主題にあった“あかり”を作ろう。</p> </div>			
ね り あ げ る	<p>光の出し方や形の工夫をしながらより主題に合った表現を追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形による工夫・・・巻く、切る、曲げる、重ねる、組み合わせる、接合する、切って巻く、しわをつけるなど ・光の出し方の工夫・・・穴をあける、切り込みを入れる、反射させる、映し出す、切り込みの幅を変えるなど <p>作品に光源を入れ、主題にあった光が確かめる。</p>	<p>< c - > 光を入れたり、形を工夫したりしながら自分のイメージに合った様々な表現を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>作品の形や光のもれ方から判断する。</p> </div> <p>A：主題を意識しながら形と光の出し方を効果的に結びつけて表現している。</p>	<p>個別指導によって、主題を表現するために適切な表現技法や用具の扱い方ができるようにアドバイスをする。</p> <p>< C の状況の生徒への手だて > 形だけの追求で表現しようとしている生徒には、光源を入れて光のイメージを確認し主題を意識して制作が進められるようにする。</p>
振 り 返 る	<p>お互いの作品のよさや工夫した点を見合い、認め合う。 A子の作品に光源を入れ、鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の感じが自分の出したいイメージに近付いた。 ・まだ形がうまくいかないのをさらに直していきたい。 <p>できた作品について主題が表現できているか評価し、学習ノートに記入する。</p>		<p>作品の変容や工夫点を鑑賞することで、自分の表現を振り返り、今後の制作に生かしていけるようにする。</p>

5 評価の実際と個に応じる指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

< C - >

光を入れたり、形を工夫したりしながら自分のイメージに合った様々な表現を試す。

(2) 評価の実際

— 評価の方法 —

作品

形や光の出し方に主題を意識した工夫が見られるか。

— 判断の事例 —

- ・ 主題を意識し、光の出し方を考えて制作に取り組んでいた。また作品に主題に迫る形の工夫や表現が見られたので、A と判断した。
- ・ 電球を作品に入れながら形を工夫し、様々な表現を試していたので、B と判断した。
- ・ 電球を使うことなく形だけの表現だったので C と判断した。

(3) 個に応じた指導の実際

・ つまずきの傾向と指導の意図

主題をあまり意識せず、表面的な形のおもしろさを追求したり、うまく成形させることに意識がいたりしている生徒に働きかけ、主題を意識した表現ができるようにした。

・ 指導の実際

作品に電球を入れ、光の感じが主題に合っているか確認し、どうすれば主題に迫れるかを考えた。

・ 生徒の変容

電球を入れながら光のイメージを確かめることによって表面的な形ではなく、自分の主題にあった光や形の表現を追究できるようになった。